

研究テーマ

「自己を鍛え、学び合う力を育てる」

～対話の生まれる道徳の授業づくりを通して～

視点1

自分の考えを持つための資料や導入の工夫。

- ・ 発達段階に応じた指導の工夫
- ・ **自己決定させる場面**の工夫
- ・ 資料分析、展開構想の作成によるより深い**教材研究**

視点2

多様な考えから自己の考えを深めるための指導の工夫

- ・ 対話を通して自他の**考えを交流**する中で価値を深める工夫
- ・ 児童がより深く考えようとする**意欲を高める発問**の工夫
- ・ 自己を振り返る「道徳ノート」の活用＝**振り返りの場面設定**

視点3

道徳的实践力を育成するための他の教育活動や道徳の時間の関連の工夫

- ・ 体験活動や各教科等との関連を意識した指導
- ・ 特別活動、総合的な学習の時間、日常の教育活動
- ・ 資料分析、展開構想の作成によるより深い教材研究

◆ 課題の設定

- ・ 考えたくなる「ねらい」
- ・ 授業を見通す

◆ 考えを書く

- ・ 自分の考え、友だちの考え

◆ 「ねらい」にむかう発問

◆ 授業をふりかえる

全教育活動

まずは「自分を変える」という観点に立つ

学校の問題を議論する際、「あいさつができない」「考える力がない」など「児童生徒の問題」のみに目を向けてしまいがちである。しかし、大切なことは「自分は今まで何を指導してきたのか」と自分自身に目を向け、「自分のどこを変えられそうか」「どう変わるのか」という観点からテーマを設定し、手立てを生み出すための議論の場をつくることなのである。児童生徒の変容・成長を期待するのであれば、まず、教職員が今までと違うことに取り組んでみるのが大切である。また、手立ての有効性を検証する際、「児童生徒がどう変わったか」より、「自分がどう変わったか」という観点から分析することの方が容易で効果も確かめやすい。

(大分県教育委員会より)

【3・4年 国語の授業から／3年「サーカスのライオン」 4年「ごんぎつね」】



改善ポイント
◆わかりやすい、意欲が喚起される「めあて」の設定の工夫

「本時の「めあて」の提示
単元始めの1時間目には単元全体を通しての児童の「めあて」（学習ゴール）の提示。（単元を貫く言語活動の提示）



改善ポイント
◆個人思考の場面で「書き込み」をノートもしくはワークシートにする。
◆反応が弱いときこそペア・グループ学習。「教師対子ども」→「子ども対子ども」

